

平成 23 年 10 月 28 日

瑞浪超深地層研究所の施設活用について

超深地層研究所跡利用
検討委員会事務局

昨年度に実施された第 10 回の超深地層研究所跡利用検討委員会（平成 22 年 12 月 17 日）において、瑞浪超深地層研究所（以下、「研究所」といいます）における体験学習への取り組み状況と深度 300m ステージの活用方策等をご報告させていただきました。

今回は、本委員会以降の研究所における体験学習への取り組み状況や情報発信、研究坑道の施設供用、深度 300m ステージの活用状況等について紹介させていただきます。

1. 研究所における体験学習への取り組み

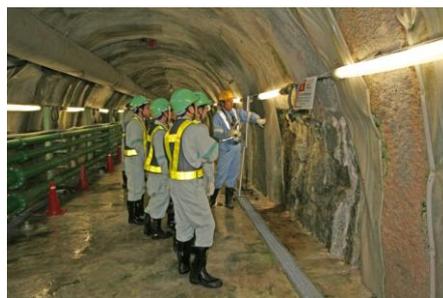
①児童・学生を対象とした先端科学体験

高校生のための先端科学体験合宿プログラム「サイエンスキャンプ」を平成 23 年 8 月に開催しました。「感じてみよう!!地球のすがた～地下の世界を探る～」と題したテーマのもと、全国から 10 名の高校生が参加して地層や地震・火山等の地球科学について学びました。

また、文部科学省が進める科学技術、理科・数学教育を重点的に行う学校「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定された高校の研究所見学の受け入れや御嵩町共和中学校への講師の派遣や熱田高校主催の実験教室への協力等行いました。



サイエンスキャンプ



SSHの施設見学



御嵩町共和中学校への講師派遣

②施設見学会

施設見学会を毎月 1 回開催しています。平成 22 年 12 月から平成 23 年 10 月 22 日までに、2,124 名（うち入坑者数：1,571 名）の方々にご見学をいただきました。

- ③各イベントへの出展及び報道関係等
 瑞浪市、中部経済産業局主催の「おもしろ科学館 2011in みずなみ」等、各イベントへの出展を行いました。
 報道関係では、新聞・雑誌やテレビ放映による研究所の紹介等がありました。



おもしろ科学館 2010in みずなみ

2. ホームページを用いた情報発信

①360° パノラマ写真のコンテンツ追加

深度 300m ステージの一つ一つの地点の写真画像を上下左右 360 度自由に見渡すことができるようになっていました。また、写真画像奥の赤色のスポットをクリックすることで、深度 300m ステージを自由に散策することができます。

②ホームページコンテンツの追加・更新

研究所の地下深くの様子を分かりやすく楽しく学べるコンテンツとして、研究坑道の壁面写真やスケッチを用いた、パソコン上で地層の観察ができる体験ソフトの壁面データの更新を行いました。



立坑の壁面を観察してみよう！
 (体験ソフト)

3. 地域への広報活動

①事業説明会の開催

瑞浪超深地層研究所における事業説明を各自治体及び地元区等への説明会を毎年行っております。

②広報誌による情報発信

超深地層研究所計画における研究内容や施設の施工状況などを掲載した広報誌、地層研ニュースを毎月 1 回発行しています。

③情報・意見交換会の開催

地層科学研究の研究開発成果や状況等について情報交換やご意見をいただくことを目的に毎年開催しています。今年度は 11 月 1 日に瑞浪市地域交流センター「ときわ」にて開催する予定です。



昨年の情報・意見交換会

4. 研究坑道における施設供用

東濃地震科学研究所における研究坑道への地震計・歪計による観測及び名古屋大学におけるニュートリノ捕捉用原子核乾板の貯蔵を行っています。



深度 200m ボーリング横坑での地震計



原子核乾板の貯蔵の様子

5. 深度 300m ステージの活用状況

昨年に引き続き、深度 300m ステージの研究坑道の説明用パネルを適宜更新しています。



深度 300m 研究アクセス坑道



深度 300m 研究アクセス坑道
100m計測坑道

6. 瑞浪市地球回廊での展示追加

瑞浪市地球回廊の原子力機構ブース「日本列島ひとまたぎ」において、主立坑から採取した岩石（深度 60m から 10m 毎に深度 200m までの岩石と深度 200m から 50m 毎に深度 450m までの岩石）を展示しました。岩石を直接触ることができるとともに、各地層（岩石）の特徴を説明したパネルも設置しています。今回は深度 200m 以深の岩石を追加しました。



(瑞浪市地球回廊における立坑の岩石展示の様子)

7. 管理棟の展示コーナーの整備

管理棟の一階の展示コーナーに電子掲示板の導入や主立坑の岩石標本の岩石の追加、壁面スケッチ模型（卓上版含む）の壁面データの追加、PC内コンテンツの「立坑の壁面を観察してみよう（展示コーナーバージョン）」の壁面データの追加を行いました。



(管理棟展示コーナーの様子)

8. 今後の施設活用について

研究所では、体験学習の場としての活用や、研究成果等の情報発信、深度 300m ステージの活用、外部機関の利用の促進等に引き続き取り組んでいきます。

以上